

セカンド・サロンえるだー 運営推進会議実施報告

開催日 令和7年1月24日 14時～15時

会場 セカンド・サロンえるだー

出席者	有識者(認知症地域推進支援員)	欠席
	コミュニティセンター	1名
	民生委員	1名
	地域包括支援センター	1名
	出雲市職員	1名
	事業所	1名

議題	現在の運営状況、職員体制について、地域の困りごとについて
----	------------------------------

内容 ①	<p>ご利用者の介護度、疾病、通い・訪問・泊まりの状況について説明。 平均介護度2.6（ご利用者2名施設入所により契約終了）</p> <p>10月訪問総回数577回、12月訪問総回数601回 前回（9月10月）と比べて訪問回数はそれぞれ20回程度増えているが、これは特定のご利用者に対して訪問を強化した結果である。当該ご利用者は施設入所となったため、以降は例年通りの訪問回数に戻るとみられる。</p>
---------	--

内容 ②	<p>現在の居宅介護支援専門員が3月末を以て退職（年齢的・身体的な事情）。 4月以降は管理者が居宅介護支援専門員を兼務することとなる。</p>
---------	---

内容 ③	<p>認々世帯（ご主人は軽度認知障害、妻がご利用者）ご利用者について、12/28に突然家族より「こいつを殺してわしも死ぬ」と在宅生活困難となり、えるだーで泊まりを行う。見当識障害が強く、泊まりを入れると混乱が大きくなる事や在宅生活継続困難となるリスクが高かったため泊まる＝施設入所となる事が予め想定されていた。</p> <p>家族希望により12月に老人保健施設の入所のため面談が予定されていたが、家族の意見が定まらず中止となる。その矢先の出来事であった。</p> <p>えるだーとしては年末年始の泊まりについて対応出来ない事はなかったが（想定はしていない）、いつまでの入所か分からない事や、ご本人にとっても泊まる先がコロコロ変わる事は不利になるとして、急遽居宅ケアマネにつなぎ空きの短期入所を探した。</p> <p>無事見付き、同時進行で別の老人保健施設に連絡をし入所の申し込みを行う。</p> <p>推進会議直前の出来事だったが、無事老人保健施設へ入所が出来た。</p> <p>しかし、やはり入所で環境が変わった事が原因かご家族の事は分からなくなっておられ、在宅復帰困難となる。</p> <p>これまでえるだーとしてご主人にも関わっており（利用者ではないが、既往歴からも放っておける状態ではなくなったため、手引きし介護認定だけは受けていただいた）、今後はサービス事業者ではなく地域資源としてご主人に関わることとする。</p> <p>幸い件の居宅ケアマネがマネジメントを引き受けてくださることとなり、サービスの利用等調整する事になるが、妻がいなくなった事で急激に不安や物忘れが進んでおり、えるだー管理者以外の言葉を聞き入れなくなっている。</p> <p>推進会議の中でこの事について説明すると、その地域は殆どの世帯で高齢世帯である事が判明し、且つ民生委員が不在である事が判明した（民生委員との連携を申し出た際にご主人よりそれはやめてほしいと拒否されたため、不在について確認出来ていなかった）。</p> <p>これまで個人情報の観点からも、所謂「地域の心配な方」について推進会議で議題に挙げる事はなかったが、今回のケースについては事情に鑑み、社会資源として関わっていく事を推進委員の皆様にもお伝えした。</p>
---------	--